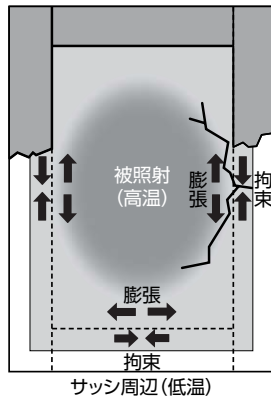


ガラスの熱割れ

ガラスは熱によって膨張する性質をもっています。直接日射を受ける部分と、窓枠などの中に隠れている部分とで、温度の差が生じるため、熱膨張にも差が生じます。この熱膨張差が、そのガラスのもっている「強度」を超えた場合、ガラスが割れます。これが網入りガラスに多く見られる「熱割れ」と呼ばれる現象です。ガラスに割れが発生した場合、すみやかにガラス交換を依頼してください。

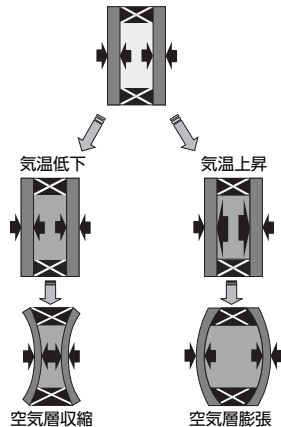


熱割れを予防するポイント:

- ガラス面にカーテンやブラインドを密着させない。
- 暖房・冷房の温風・冷風をガラスに直接当てない。
- ガラス面に紙を貼ったり、ペンキを塗ったりしない。
- 室内に熱だまりをつくらない。

複層ガラスのゆがみ

複層ガラス面に反射して映る像がゆがんで見えることがあります。複層ガラスの中間層は密閉された構造のため、温度や気圧の変化などによって内部の空気の収縮や膨張が起こります。これにより、ガラスが湾曲し、ガラス表面に反射して映る像がゆがんで見えます。特にLow-E複層ガラスでは、反射率が高いためゆがみが目立つことがあります。



ステンレスのさび

ステンレスは、表面に独特の保護皮膜が形成されます。この皮膜は、空気中の酸素が触れている間は優れた耐食性を示す性質をもっていますが、ステンレス表面が汚れると、酸素との接触が妨げられるのでさびが発生することがあります。そのため、特に次のような場合は、さびが発生しやすくなります。

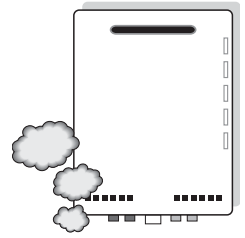
- ① 塩素系の洗剤がステンレス部に付着した場合
- ② 海岸沿いなどの環境において塩分が付着した場合
- ③ 他の物のさびがステンレス表面に付着した場合(「もらいさび」)などさびが発生した場合は、台所用クレンザー、市販のステンレス用清掃薬剤などでこすり落としてください。この場合、表面にこすりキズがつくことはさげられません。「もらいさび」が落ちない場合は、さびが進行し、ステンレス自身にさびが生じたものと考えられます。

さびを予防するポイント:

- いったん発生したさびは落とすことが難しいため、日頃から中性洗剤(1~2%の水溶液)で、こまめにお手入れをする。

ガス給湯器などの排気ガスによる腐食

ガス給湯器などからの排気ガスが、アルミ部材の塗膜のはがれなどの表面異常の原因となることがあります。ガス給湯器などの排気ガスの成分には、微量ながら硫黄分が含まれている場合があり、この硫黄分が空気中や排気ガスの水分と化学反応を起こして、亜硫酸、硫酸のような強い腐食性の酸をつくる場合があります。これらの酸が塗膜表面に付着すると、塗膜自体を劣化させ、塗膜の下にアルミに達し、アルミとの化学反応によって塗膜はがれなどの表面異常を引き起こすことがあります。また、ガス給湯器や車の排気ガスが直接当たらなくても、周辺の通気が悪く、排気ガスが滞留するような場所にアルミを使用した場合でも、塗膜のはがれなどが起こるおそれがあります。



腐食を予防するポイント:

- ガス給湯器および車の排気ガスが直接アルミに当たらないようにする。
- 排気口付近にアルミ製品を設置する場合は、こまめにお手入れし、周辺の通気を確認したうえで使用する。

防火商品の白い結晶

商品の特性上、結露水などにより窓やドアの表面に白い結晶が発生する場合があります。この白い結晶は無害であり、水拭きでふき取ることで除去できます。

樹脂製商品への殺虫剤散布によるひび割れ、はがれ

殺虫剤などの薬剤が付着すると、ひび割れやはがれが発生するおそれがあります。殺虫剤などの薬剤を樹脂表面に塗布・散布し付着させないように注意してください。

片引き窓・引違い窓・引違いテラス戸の下枠の雨水たまり

片引き窓・引違い窓・引違いテラス戸の下枠に雨水がたまる場合があります。これは、窓の水密性能を保持するために構造上必要な状態であり、不具合ではありません。

清掃時の散水による水浸入

窓を閉めた状態で雨が室内側へ入らないよう、窓・枠にはパッキンなどの気密部品を取り付けています。これは、強風を伴う降雨時を想定した所定の水密性能を確保するためのものですが、窓・枠のすき間を完全に密閉するものではありません。清掃時に、ホースや高圧洗浄機などで強く水をかけたり、下から上方向に水をかけたりすると、室内側へ水が入る場合があります。これは、水の勢いが強かったり、上方向に水をかけたりしたことで、通常の降雨を想定した窓の水密性能を超える状況となったことによるもので、窓の不具合ではありません。清掃時は、草花に水やりする程度の水流で、下方向にシャワー状の水がかかるように散水してください。